

協働事業の実施に向けて

～平成22年度協働事業提案に基づく提言～

平成22年11月

柏市協働事業提案選考委員会

「平成22年度協働事業提案に基づく提言」について

本書は、平成22年度の協働事業提案制度の結果に基づき、来年度実施すべき協働事業及び提案制度の運用上の課題について、選考委員会から柏市へ提言するものである。

* * * * *

今年度の提案制度は、次のようなスケジュールで運用された。

4～5月	提案事業の募集
7月2日	選考会 (提案のあった4事業のうち、2事業が選考通過)
8～10月	調整協議 (選考通過した2事業について、事業のブラッシュアップのための協議を実施。提案者、担当課、協働コーディネーター、市民活動推進課(事務局)が協議に参加)
10月15日	調整協議報告会 (調整協議の結果を選考委員会に報告)

協働事業提案制度は、過去2年間において選考を通過する事業がなかったが、今年度は、2件の事業が選考を通過した。この2件は、約2か月間の調整協議を経て、協働事業として成果を十分期待できるものとなったため、本書において来年度事業としての実施を提言する。

また、今般、制度の運用に選考委員として関わる中で、制度に対する課題等も感じられるようになったため、運用上の課題と改善案を提案する。来年度以降の制度に反映されるよう、検討されたい。

目 次

1	選考会通過案について	…… 1 頁
2	選考会及び報告会を終えて（小松孝之委員長）	…… 9 頁
3	今後の課題	… 11 頁

■協働事業提案選考委員名簿（◎委員長，○副委員長）

◎ 小松孝之	株式会社ちばぎん総合研究所 受託調査部長
○ 東谷裕壮	市民公募委員
谷本有美子	拓殖大学政経学部非常勤講師 社団法人 神奈川県地方自治研究センター研究員
小島琢夫	(特活) ときわ会まちづくりネットワーク前理事長 (特活) 笑実里 副理事長
児玉典子	柏・麦わらぼうしの会
沢田久	市民公募委員
石名坂賢一	柏市 企画部企画調整課 主査
根本知幸	柏市 市民生活部市民活動推進課 課長

■協働コーディネーター名簿

松清智洋	柏市民活動センター マネージャー
松永敏明	元協働事業提案制度・市民公益活動補助金選考委員（市民公募委員）

1 選考会通過案への提言

4 件の提案のうち、選考会を通過した 2 件の提案について、提案者と関係部署、事務局、協働コーディネーターの 4 者間で調整協議が実施された。

去る 10 月 15 日に、これまでの調整協議に関する報告を受け、その結果を踏まえて当該 2 件の協働事業の実施を市に提言することとした。

①	提案事業名	子どもスポーツ苦手解決支援事業 スマイル運動教室（鉄棒上達教室）
	提案団体名	(特活)スマイルクラブ
	事業関係課	スポーツ課，指導課
②	提案事業名	学校における「デートDV」防止プログラム実施事業
	提案団体名	グループSEC(地域で‘性共育’をつくる会)
	事業関係課	学校保健課，指導課，男女共同参画室

選考及び調整協議の結果概要

① 子どもスポーツ苦手解決支援事業 スマイル運動教室（鉄棒上達教室）

1 市や社会の抱える課題	<p>鳴門教育大学の調査によると、徳島市内の小学校 5・6 年生 550 人のうち半数近くの 44.9%が「逆上がりができない」と答えており、分析によると、“鉄棒の出来る出来ない”でスポーツ・運動嫌いにもなり、“教室での人気にも左右”される、といわれている。</p> <p>スマイルクラブが平成 21 年にモデル事業として逆上がり教室を行ったところ、予定を上回る申込みがあり、ニーズの高さが認識された。</p> <p>より多くの児童が成功体験を通して体育諸活動に積極的に取り組み、やれば出来るという自信や体力の向上を図り、スポーツの盛んなまちづくりを行うことが課題である。</p>
2 事業の概要	<p>(1) 鉄棒上達教室の実施</p> <p>柏市内小学校 10 校の 3 年生で逆上がり苦手な子 20 名を対象に、1 回 60 分の教室を週 2 回で合計 4 回放課後に実施する（鉄棒だけではなく、基本の運動も加えて楽しみながら様々な運動能力の向上を図る）。</p> <p>教室を実施する 10 校には事業PRを行い、スマイルクラブスタッフ 3 名およびサポートスタッフ 3 名が指導にあたる。さらに、親子</p>

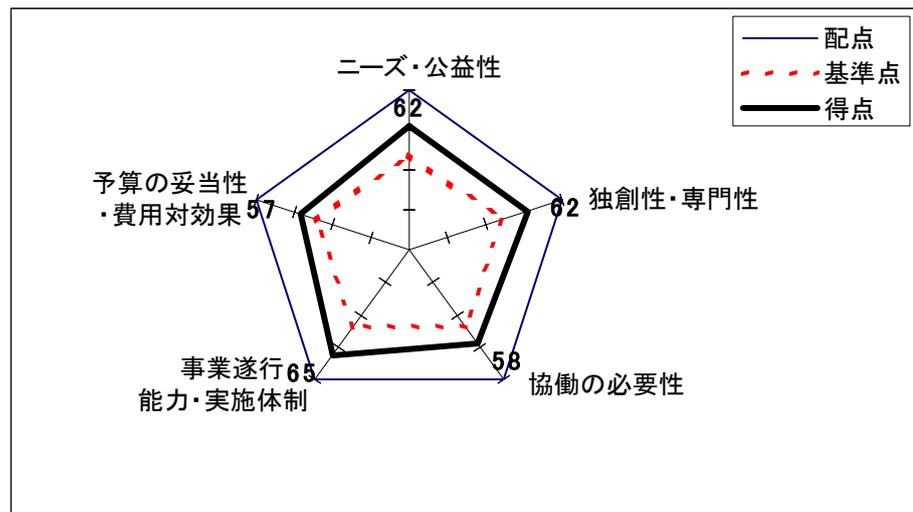
	<p>のコミュニケーションの増進と短期間での達成率を高める目的で、10校の中からモデル校を1校選定し、休日に親子で教室を行う日や教室での子どもの様子を積極的に見学することを促し、子どもの段階にあった指導（補助）方法を学んでもらう機会を設ける。</p> <p>(2) 鉄棒上達教室サポートスタッフ養成研修会の実施</p> <p>養成人数は10名とするが、研修会は一般市民や大学の学生等へも広く参加を呼び掛ける。参加者には鉄棒教室のサポートスタッフとして活躍していただくほか、市の体育指導委員や学校ボランティア登録制度やスマイルクラブのボランティア案内も行い、将来的な市のスポーツ振興の担い手づくりを目指す。</p>																														
<p>3 なぜ協働が必要か</p>	<p>学校という公共性の高い場所で事業を行うことから、市と協働することで事業開始の連絡や実施希望校の公募・選定等、事業実施にあたり各学校と提案者との間に入り、連絡・日程調整などがスムーズに行えることで事業の効率化を図ることができる。また、サポートスタッフ養成事業の広報を広く行うことで、事業をニーズのある所へ効率的に案内することができるとともに、受講した方が体育指導員や学校ボランティア等へ登録し、活躍してもらうことで市のスポーツ振興にも寄与することができる。</p>																														
<p>4 事業経費 (調整協議を踏まえた額)</p>	<p>【概算事業経費 1,369,000円】</p> <table border="1" data-bbox="475 987 1385 1662"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>見積額</th> <th>積算根拠 (数量, 単価など)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>研修会講師謝金</td> <td>40,000円</td> <td>@10,000円×4名×1日</td> </tr> <tr> <td>研修会運営謝金</td> <td>20,000円</td> <td>@5,000円×4名×1日</td> </tr> <tr> <td>教室講師派遣 (メイン)</td> <td>600,000円</td> <td>@5,000円×3名×4回×10校</td> </tr> <tr> <td>教室サポートスタッフ謝金</td> <td>480,000円</td> <td>@4,000円×3名×4回×10校</td> </tr> <tr> <td>ステップカード 用紙代</td> <td>6,000円</td> <td>@20円×300枚 (20人+予備10人分×10校)</td> </tr> <tr> <td>出席カード用紙 代</td> <td>3,000円</td> <td>@20円×75枚×2(両面)</td> </tr> <tr> <td>くるりんベルト</td> <td>60,000円</td> <td>@2,000円×30個</td> </tr> <tr> <td>諸経費</td> <td>160,000円</td> <td>@1,000円×2時間×60日 @50円×200名×4日(保険料)</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>1,369,000円</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	区 分	見積額	積算根拠 (数量, 単価など)	研修会講師謝金	40,000円	@10,000円×4名×1日	研修会運営謝金	20,000円	@5,000円×4名×1日	教室講師派遣 (メイン)	600,000円	@5,000円×3名×4回×10校	教室サポートスタッフ謝金	480,000円	@4,000円×3名×4回×10校	ステップカード 用紙代	6,000円	@20円×300枚 (20人+予備10人分×10校)	出席カード用紙 代	3,000円	@20円×75枚×2(両面)	くるりんベルト	60,000円	@2,000円×30個	諸経費	160,000円	@1,000円×2時間×60日 @50円×200名×4日(保険料)	計	1,369,000円	
区 分	見積額	積算根拠 (数量, 単価など)																													
研修会講師謝金	40,000円	@10,000円×4名×1日																													
研修会運営謝金	20,000円	@5,000円×4名×1日																													
教室講師派遣 (メイン)	600,000円	@5,000円×3名×4回×10校																													
教室サポートスタッフ謝金	480,000円	@4,000円×3名×4回×10校																													
ステップカード 用紙代	6,000円	@20円×300枚 (20人+予備10人分×10校)																													
出席カード用紙 代	3,000円	@20円×75枚×2(両面)																													
くるりんベルト	60,000円	@2,000円×30個																													
諸経費	160,000円	@1,000円×2時間×60日 @50円×200名×4日(保険料)																													
計	1,369,000円																														

5 参考（選考の結果）

(1) 選考結果

8名の選考委員会において5つの評価項目（配点10点，全委員計80点，合計400点）で評価を行った結果は次のとおりである。

評価項目	配点	基準点	得点
ニーズ・公益性	80	48	62
独創性・専門性	80	48	62
協働の必要性	80	48	58
事業遂行能力・実施体制	80	48	65
予算の妥当性・費用対効果	80	48	57
合計	400	240	304



(2) 選考委員会からのコメント

- ・大変良い提案である。「スポーツ文化の育成」という視点に立って、中・長期的に「スポーツ嫌いの子どものみをなくす」という課題に、高いレベルの協働に取り組んでいただくことを期待している。
- ・学校教育の中でやるべきことであるという意見もあったが、現状、鉄棒にかけられる時間はとても短いので、外部の専門家が関わることで効果も高まり、先生や子どもたちの刺激にもなると思う。
- ・この事業を通して、教員側の指導力の向上が期待でき、そのような教員が増加すれば、波及効果も大きくなると思う。
- ・幼稚園など、もっと下の年代でやったほうがよいという意見もあったが、3年生までに逆上がりができなかった子について、セーフティネット的な位置づけで取り組む意義は十分あると思う。

(3) 調整協議に向けて

- ・単年度では、対象となる学校や生徒数が限られてくるので、他の多くの学校や子どもたちあるいは教員に対して、本事業の効果をどう広めていくのかについて、将来どのように展開していくかという戦略が必要だと考える。そして、この戦略（将来展開）を、市や学校側と協議して立案することを協働で行うことが大切である。
- ・担当課が事業を補完的にとらえているように感じた。協働事業の意義は、単に会場の提供や資金提供にとどまらないため、市の関わり方

	<p>を協議してほしい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・限られた予算を有効に活用する事業形態をつくってほしい。例えばリーフレットの作成よりも、鉄棒の講座を多くできるような予算的な配慮が必要と思う。 ・目標は50%ではなく100%の方が達成感を得ることができるのではないか。 ・また、プレゼンテーションの中にもあったように、親子のコミュニケーション増進のためにも、可能であれば、親も一緒に参加できる企画も検討してほしい。
6 参考（調整協議での変更事項）	<p>(1) 放課後の実施や子どもの体力向上という目的から担当課を指導課からスポーツ課とした。しかし、学校現場で行う事業であり、実施校を選定する必要から引き続き指導課も関わることとした。</p> <p>(2) リーフレットの経費を削減し、指導校を5校から10校へ変更した。また、10校での指導は8回ではスタッフの確保や指導日程が学校同士で重複する可能性が高くなることから、前回の逆上がり達成者の達成日数を調査し、約7割が4日で達成していることから、1校につき4回の指導形態で事業を進めることとした。</p> <p>(3) 指導においては、定員を超える申込みへの対応や短期間での指導成果を上げることを踏まえ、スマイルクラブスタッフ3名にサポートスタッフ3名を加えた6名での指導にあたることとした。</p> <p>(4) 親子コミュニケーションの増進や教室後のフォローを考慮したモデル教室を1校実施する。モデル校では休日（日曜日）に親子で参加できる教室や積極的に教室の参観を促し、効果に差があるかを検証することとした。</p> <p>(5) サポートスタッフ養成研修会は今後の鉄棒教室の普及も考慮し、市の体育指導委員や大学の学生等へ案内して門戸を広げ、市のスポーツ振興にもつながる事業としたい。また、研修では市のスポーツ振興の状況についてスポーツ課から話をしてもらおう。そのことで、受講者が市の体育指導委員や学校ボランティアに登録したり、スマイルクラブのボランティアに参加したりすることを期待したい。</p> <p>(6) 普及に関しては、実施校および鉄棒教室指導者（ボランティアを含む）に指導マニュアルを配布することと、対象校が10校に増加したこと及び学校体育サポート事業に関わっているスタッフが学校の休み時間等を活用して指導することで実質年20校の児童に関わる事ができ、実質2～3年で全ての学校をフォローできる体制とした。</p>
7 参考（報告会での意見）	<ul style="list-style-type: none"> ・鉄棒上達教室については、より広範に事業を実施できるよう、実施校数を5校から10校へ拡大したとのことであった。1校あたりの回数を8回から4回に減らすものの、回数の減少はサポートスタッフの増員で対応するとのことであったので、上達教室の効果が維持されるよう、提案団体の工夫に期待したい。また、上達教室で成果が出なかった子への支援（提案団体の自主事業でのフォローなど）も検討していただきたい。 ・併せて、昨年度の上達教室の実績では、鉄棒ができない子の50%

	<p>に成果があったとのことであったが、将来的には100%の達成を目指していただきたい。</p> <ul style="list-style-type: none">・事業の実施に当たっては、成果目標を明確にし、事業の振り返りや評価が行えるよう、お願いしたい。・事業の成果については、実施校をはじめとする小学校や指導課へ報告をしていただき、成果がフィードバックされるよう、お願いしたい。また、市民に対しての成果報告も行い、事業への市民の理解を深めるよう、お願いしたい。・当初、指導課だけが協働事業の相手方であったが、スポーツ課が入ったことで、事業に広がりが見られ、大いに期待できる。実施に当たっては、提案団体との連携のみならず、スポーツ課と指導課の行政内部での連携も密にさせていただき、学校教育・スポーツ振興双方に波及効果のあるよう、お願いしたい。
--	--

② 学校における「デートDV」防止プログラム実施事業

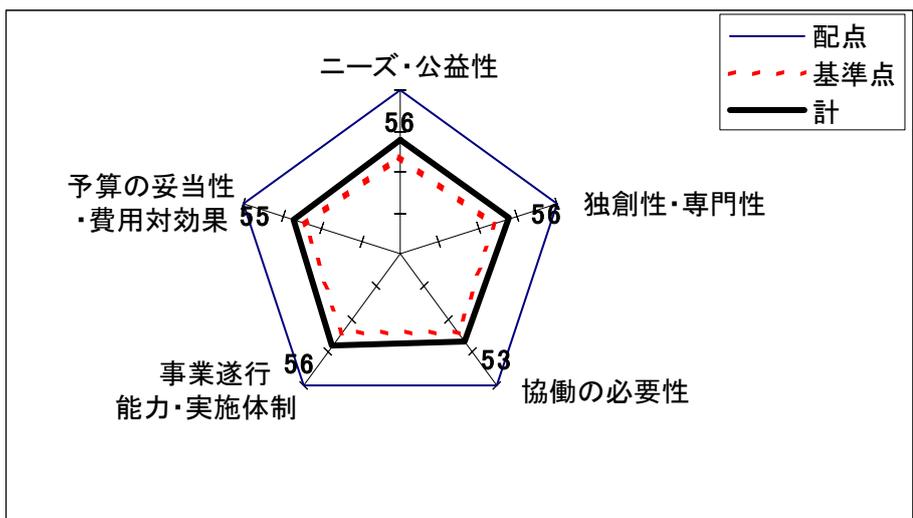
1 市や社会の抱える課題	児童虐待とDV（ドメスティック・バイオレンス）は社会問題化している。これから大人への成長に向けてラストスパートに入る思春期の子どもたちこそ、こうしたことを学ぶべき最適の時期である。																									
2 事業の概要	平成 23 年度はモデル事業として、市内の中学校 10 校で「デートDV防止プログラム」を実施する（90～120 分）。その内容は、デートDVとは何か、DVの本質は「力と支配」、デートDVをなくすために気づくこと、学ぶこと、DVが起きたときのサポートについてなど。 プログラムではテーマにそって参加者である生徒たちのロールプレイやグループ討議をはさみながら、ファシリテーター（進行役）が進めていく。会場は参加人数により、教室や講堂、体育館などで行う。																									
3 なぜ協働が必要か	思春期の問題に取り組むには、まず子ども達の教育現場である学校との協働は必至である。柏市教育委員会では養護教諭会を中心に充実した性教育の手引き書を作成し、学期毎の性教育を各学校にしっかり義務づけている。この状況下で担当課と協議し、理解を得ながら「デートDV防止プログラム」が生徒たちに届くことはとても大事なことである。教師生徒双方にアンテナが出て、何かあった場合の対応が可能になる。																									
4 事業経費 （調整協議を踏まえた額）	<p>【概算事業経費 300,000 円】</p> <table border="1" data-bbox="478 990 1391 1523"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>見積額</th> <th>積算根拠（数量、単価など）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>旅費交通費</td> <td>20,000 円</td> <td>ファシリテーター（市外在住者、打合せ含む） @2,000 円×10 回</td> </tr> <tr> <td>通信運搬費</td> <td>5,000 円</td> <td>電話代、郵便料</td> </tr> <tr> <td>印刷費</td> <td>10,000 円</td> <td>資料作成用カートリッジ、インク</td> </tr> <tr> <td>消耗品費</td> <td>25,000 円</td> <td>文房具 5,000 円、書籍・DVD 20,000 円</td> </tr> <tr> <td>人件費</td> <td>200,000 円</td> <td>ファシリテート 20,000 円×10 回</td> </tr> <tr> <td>研修(研究)費</td> <td>40,000 円</td> <td>フォローアップ講座ほか @10,000 円×2 回×ファシリテーター2 名</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>300,000 円</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		区 分	見積額	積算根拠（数量、単価など）	旅費交通費	20,000 円	ファシリテーター（市外在住者、打合せ含む） @2,000 円×10 回	通信運搬費	5,000 円	電話代、郵便料	印刷費	10,000 円	資料作成用カートリッジ、インク	消耗品費	25,000 円	文房具 5,000 円、書籍・DVD 20,000 円	人件費	200,000 円	ファシリテート 20,000 円×10 回	研修(研究)費	40,000 円	フォローアップ講座ほか @10,000 円×2 回×ファシリテーター2 名	計	300,000 円	
区 分	見積額	積算根拠（数量、単価など）																								
旅費交通費	20,000 円	ファシリテーター（市外在住者、打合せ含む） @2,000 円×10 回																								
通信運搬費	5,000 円	電話代、郵便料																								
印刷費	10,000 円	資料作成用カートリッジ、インク																								
消耗品費	25,000 円	文房具 5,000 円、書籍・DVD 20,000 円																								
人件費	200,000 円	ファシリテート 20,000 円×10 回																								
研修(研究)費	40,000 円	フォローアップ講座ほか @10,000 円×2 回×ファシリテーター2 名																								
計	300,000 円																									

5 参考（選考の結果）

(1) 選考結果

8名の選考委員会において5つの評価項目（配点10点，全委員計80点，合計400点）で評価を行った結果は次のとおりである。

評価項目	配点	基準点	得点
ニーズ・公益性	80	48	56
独創性・専門性	80	48	56
協働の必要性	80	48	53
事業遂行能力・実施体制	80	48	56
予算の妥当性・費用対効果	80	48	55
合計	400	240	276



(2) 選考委員会からのコメント

・男女交際は極めてプライベートな問題であり，そこに市や学校が協働事業として関わっていくべきなのかという疑問もあったが，既に実施した学校側の有効であったという評価と市の前向きな意向も踏まえ，協働事業としての必要性は高いと考えた。

・市に対する市民団体からの提案を契機として協議等が始動するこの制度のしくみから考えると，行政だけでは実施できないものを，提案をきっかけとして実験的に取り組んでみるという側面も重要であると考ええる。

・人間が生きていくための基本的なことを考えるという観点から，子どものうちから積極的に「性」の問題を考える機会を設けるという点で，市との協働が成り立つのではないかと考える。人間教育の一環としてやるのであればよいと思う。

(3) 調整協議に向けて

・担当課が将来的にどうありたいのか，柏市として学校教育の中での「性」や「デートDV」に関する教育をどう位置づけ，どこまで，どのように展開していくのか，といったビジョンがあまり見えなかったため，提案団体の意気込みが先行しているように感じた。この事業は協働事業であり，明確な役割分担のもと，双方が専門性を発揮し，不足する部分を補完しながら，相乗効果や波及効果を追求していくこと

	<p>に意義があるので、その辺りの協議を十分にしてほしい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・また、今回の成果を他の学校の生徒や教員にも情報発信して共有し、次のステップにつなげてほしい。
6 参考（調整協議での変更事項）	<p>(1) 学校関係者や保護者等にデートDVとその防止プログラムについての周知を図るため、男女共同参画室にてパンフレットの作成、配布することを実施することとした。</p> <p>(2) 養護教員に対するアンケートでは、実施希望が17校となった。予算化は既存事業であるマイプラン事業の中で行い、これを性教育の枠の中で養護教員が中心となり実施することとした。</p>
7 参考（報告会での意見）	<ul style="list-style-type: none"> ・既存の学校教育にはない、新しい試み（プログラム）であることを評価したい。初年度はモデル事業とのことであるが、発展・定着させることを念頭においた事業実施をお願いしたい。 ・そのためには、事業評価をきちんと行うことが必要であり、提案制度の仕組みの中に、実施事業の評価を行うような仕組みが必要と思われる。 ・実際に学校で講座を行うと、当事者となった生徒からの相談等が想定される。講座としての予防事業と併せ、実際に問題があった際の問題解決につなげる仕組みづくり等もご検討いただきたい。

2 選考会及び報告会を終えて

(協働事業提案選考委員会委員長 小松 孝之)

選考委員会においては、個々の提案について活発な議論を行い、真摯かつ丁寧な審査と評価に努めてきた。経過中に注目した点と制度運用について感じた点を列挙したい。

- ① 今回提案のあった4件の内容は、子どもを対象とした「鉄棒上達」と「デートDV防止」、高齢者や障がい者を対象とした「声かけ・介護予防支援」と「移動困難者の移動支援」となっており、いずれの提案も、多様かつ切実な地域課題に基づくものであった。

不採択となった2件の提案は、一つは、協働の枠組みではなく、団体自身の力とネットワークに基づいて事業を実施した方がより成果が高まると思われるもの、もう一つは、課題認識と趣旨は適切で素晴らしいが、事業内容が固まらず、協働のメリットと効果が弱く感じられるものであった。

- ② 採択した案件についても、選考委員会で時間をかけて十分に議論を行い、事業の成果をより高めるため、提案内容の深掘りや改善等の要望・条件付けを行った。

今般、調整協議報告会において、選考会の後の調整・協議の結果を聞き、いずれの提案も選考委員会からの要望等に十分に対応し、内容の質が高まっているとともに、提案団体と担当課との信頼関係も構築されつつあり、「協働」の効果と成果を期待できるレベルに仕上がっていると感じた。したがって、今回採択した2案件については、是非とも、貴市において、「協働事業」として実現させることを、選考員会一同、希望するものである。

- ③ なお、一連のプロセスを見て、「協働コーディネーター」の存在・活躍とこのような「調整・協議」の重要性を改めて強く感じた。制度の運用としては極めて手間のかかることであるが、本気で「協働」を育てようとする場合、行政側において、このような制度とプロセスを設けることは、とても有意義である。

あわせて、事務局の存在も極めて重要であると感じた。制度全体を運用するのは当然のこととして、団体からの相談の受付や担当課との橋渡しなどを、単に機械的に行うのではなく、一緒になって考え、対応する姿勢が随所に見られる。事務局自身が、コーディネーターであり、潤滑油であり、よき相談相手であることが、この制度がうまく機能している要因でもある。

今後、更に、柏市として「協働」事業を発展させていくためには、職員全員が、「協働」に関心を持ち、自らが事務局のような姿勢でことに当たることが求められる。この点、選考会、調整協議報告会に関わり、発言や対応を見ていると、「協働」の視点を持った職員が育ちつつあると感じた。

これを全庁的に広めていくことが、今後の行政運営において、とても重

要なことのひとつであると考える。

- ④ 協働事業提案制度についても、選考委員会として、「既存事業の見直し（評価）の実施」、「テーマ型提案制度の導入」、「提案に係る申請書類の簡素化」の3点について、改善提案をしたい。

詳細については、次項3の「今後の課題」を参照されたい。

- ⑤ 市民のまちづくりへの関心を高めるとともに、他の市民公益活動団体と活動成果を共有するためにも、採択された提案事業の今後の実施状況等について、通年的に広報していくことを望む。

あわせて、市民のみならず、貴市の職員全員に対しても、内容まで踏み込んで周知し、一人でも多くの職員が本件事業に関心を持ち、ひいては「協働」の重要性を感じるような情報発信を行ってほしい。

3 今後の課題

募集から成案化までのプロセスの中で、当該制度において今後重点的に取り組むべき課題が明らかになってきた。次の3点について今後検討されたい。

(1) 既存事業の見直し

これまでの提案制度で実施されている既存の事業をより良くするための見直しをされたい。惰性で残っている事業もあるかも知れないし、第三者機関が見直してはどうか。

その場合、事業実施から3年ないし5年で、選考当時とは違う視点で、その時の選考委員会が見直したらよいのではないか。また、単に見直すのではなく、再提案にするという方法も考えられる。

1年目に「ふりかえり会議」を実施しているが、より具体的に、次年度以降の事業実施について話し合う場を設ける必要もあるのではないか。

(2) テーマ型提案制度の導入

現在の制度では、市民活動団体からの提案を受ける形で選考を行っているが、協働のための協働になってしまうおそれもある。

そこで、市側から提案を行う、いわゆる「テーマ型提案」があってもいいのではないかと考える。おそらく市側でもニーズはあると思うので、実施に向けて検討されたい。

(3) 申請書類の簡素化について

申請書の書類が多いことが気になった。また、提案する市民活動団体の思いが先行してしまい、課題と結び付けて考えることが疎かになっているものも見受けられた。

提案者が事業内容や予算について、もっと検討したり、相談できる場があってもよいのではないか。

今後、選考を通過した2件の提案事業の内容、選考委員会としての見解、制度の課題などの事柄が盛り込まれたこの提言を受けて、事業の具体化に向けて次の段階へと進むこととなる。特に市長をはじめとして関係各課の皆さまには、この提言に対する誠実な判断をお願いするものである。

最後に、選考委員会の各委員、協働コーディネーターが多くの時間と労力を割いて、選考・成案化調整・検討を重ねてきたことを報告するとともに、今年度の協働提案制度の運用に関わったすべての方々への感謝の意を表したい。

平成17年度 協働事業提案の状況（その1）

※「網掛け」部分：選考を通過した提案（5件）

No.	提案団体名	事業名	事業内容	関係部署
1	農産物直売所「とばり野菜」	農産物直売所『とばり野菜』	農産物の栽培、管理、販売に農家と市民が一体となり取り組むことにより、「食」と「環境問題」に取り組む。また、農業体験を通じて、障がい者等の社会復帰と自立を促す。	障害福祉課 農政課
2	特定非営利活動法人 教育支援三アイの会	児童・生徒の具体的指導に悩む教員への支援活動	教育のあり方に戸惑い、悩む教員を対象として教育実践上の課題解決手法を学ぶ研修講座を開催する。この研修を通じ、教育理論と実践の課題を解決していく中で、教員の自信回復を図る。	指導課
3	特定非営利活動法人 教育支援三アイの会	児童・生徒スポーツ活動団体指導者連絡協議会の設立と活動	「学校教育における学習としてのスポーツ活動」と「地域における学習外のスポーツ活動」における連携強化を図り、教育効果を高める。	指導課 スポーツ課
4	NPOエコ平板・防塵マスク支援協会	協働によるまちづくりを通して、障がい者の自立を図る	公園の整備に「エコ平板・製品」を使用した環境設計を行い、障がい者の雇用確保と社会参加を通しての自立を図る。	障害福祉課 公園緑政課
5	健康麻雀倶楽部	健康麻雀コミュニティ	老化防止に役立つとされている、健康麻雀（賭けない、吸わない、飲まない）の入門講座、指導者教室、オープン戦等を通じ、健康麻雀の普及を図ることをもって、中高年の地域社会における、仲間づくり・健康づくりの実現を図る。	保健福祉総務課 健康推進課
6	クラシックライブを楽しむ会 柏支部	講演とミニコンサート 歌って脳力UP!!	脳の老化防止に関する講演会と童謡・唱歌を参加者も共に歌うミニコンサート、クラシック演奏会を開催し、クラシック音楽のライブ演奏を楽しみながら脳力アップを図る。	文化課
7	花ボラ会	大津ヶ丘中央公園敷地内の花壇の協働による管理事業	大津ヶ丘中央公園敷地内の花壇の維持管理を通じ、市民に憩いの場・癒しの場を提供する。	公園管理室
8	ふそう会	傾聴ボランティア員養成講座の開催	高齢者の孤独を癒す「傾聴ボランティア」の養成を図る講座を実施する。	保健福祉総務課 高齢者支援課
9	JSL児童生徒の日本語と教科学習の支援会	柏JSL学習会	外国籍の子どもたちの健全育成を支援するための「母国語及び日本語での一対一指導」による学習会を開催することにより、日本語を第二言語とする子どもたちの健全育成を支援するとともに、共生の社会づくりを推進する。	国際交流室 児童育成課 指導課
10	NPO法人 とくわ会まちづくりネットワーク	中高年のパソコン初めて勉強会	インターネットの活用を主眼に置いた入門的パソコン講習会を開催。インターネットの活用による生涯学習、自発的・主体的な仲間づくり、地域活動への参加を促し、中高年の健全なシニアライフ設計を図るとともにデジタルデバイトの解消を目指す。	情報政策室 高齢者支援課 社会教育課

平成17年度 協働事業提案の状況（その2）

※「網掛け」部分：選考を通過した提案（5件）

No.	提案団体名	事業名	事業内容	関係部署
11	NPO法人 スマイルクラブ	小学校体育の授業サポート事業	小学校における体育授業に指導スタッフを派遣し、運動の苦手な子どもや障がいを持つ子どものフォローを行うことにより、児童の学ぶ意欲及び授業効果を高め、子どもの体力低下を防止する。	指導課
12	公園・緑地の管理NPO市民の会	協働による美しい緑のまちづくり実現に努力しよう	環境美化の精神に則った公園の維持管理（除草、ごみ収集、遊具点検）を実施し、市民の憩いの場・癒しの場としての公園実現を目指す。また、公園内の見回りを行うことで、公園の安全を確保する。	公園管理室
13	楽学生活協会 柏支部	『子どもの自律力を育む教育』講座の開催	ニートを生み出さない基礎づくりとして、金銭教育を切り口とした講座を開催。これにより、現実を理解し対峙することを学ぶことによる子どもの自律心向上及び働く意味を考えるきっかけづくりを図る。また、親が家庭を学習の実践場とするための方法を学ぶ機会とする。	児童育成課 社会教育課 青少年課
14	特定非営利活動法人 クリーンエコ	南部クリーンセンター周辺のごみ収集業務	南部クリーンセンター周辺において、シルバー世代及び障がい者参加のもと、地域住民の手による家庭ごみの収集を実施することにより、ごみ分別・集積所管理の徹底を促し、ノーマライゼーションの理念に則したコミュニティの形成を図る。	クリーン推進課
15	特定非営利活動法人 クリーンエコ	地域住民による公園、緑地管理・保全業務	緑住リフレッシュ拠点を中心とする南部地区の公園、緑地をシルバー世代及び障がい者参加のもと、地域住民の手で管理・保全することによって、人と自然が共生する環境を創造する気運の高揚を促すとともに、ノーマライゼーションの理念に則したコミュニティの形成を図る。	公園管理室
16	特定非営利活動法人 パートナーとうかつ	福祉施設への出前講座	高齢者や障がい者の入居施設を訪問し、生きがい増進と快適生活をサポートするための健康増進講座・カルチャー講座を実施する。	高齢者支援課
17	特定非営利活動法人 パートナーとうかつ	親子ふれあいプラザの開催	工作などの物づくりと自然観察を通じて、創意工夫や自然環境の大切さを学び、より良い人間関係の形成を目指す「親子ふれあいプラザ」を小学校低学年とその保護者を対象として開催する。	児童育成課 社会教育課 中央公民館
18	特定非営利活動法人 パートナーとうかつ	PT健康生活講座の開設	中高年層の病気予防・健康増進を図ることを目的とした、ストレッチ体操と健康知識を合わせた講座を開催することにより、健康保険制度の財政的負担の減少を図る。	健康推進課
19	特定非営利活動法人 手賀沼沼協会	手賀沼利用会議の開催	地域における貴重な水資源として、手賀沼を有効利用することを目的としたフォーラムを開催する。	環境保全課

平成17年度 協働事業提案の状況（その3）

※「網掛け」部分：選考を通過した提案（5件）

No.	提案団体名	事業名	事業内容	関係部署
20	特定非営利活動法人 NPO 支援センター ちば	移動支援の実態調査と移動支援人材育成研修の開催	障がい・高齢化などの移動制約によって社会参加しづらい市民の外出支援としての福祉輸送サービスに関する実態調査及び市民への情報提供を実施。また、移動支援を行う団体などを対象とした研修会を開催し、移動支援活動の担い手を育成する。	企画調整課 保健福祉総務課
21	NPO法人 ひとものまちづくり柏	若年者の就労支援	若年者の雇用問題を解決することを目的に『就職相談』、『職業教育』、『情報提供』、『合同企業説明会』を実施し、「ニート」、「フリーター」の減少を図る。	商工課
23	NPO法人 ひとものまちづくり柏	団塊世代キャリア塾	団塊の世代の大量退職（2007年問題）に向けて、団塊世代の人生設計の支援を目的とした講座を開催。人生のセカンドステージに向けて、それまでのキャリアと生き方を棚卸しすることで、よき市民としてどう自分を生かしていくかを整理してもらうことにより、市民生活の活性化と市民社会に貢献する人材の育成を図る。	社会教育課 市民活動推進課
24	NPO法人 ひとものまちづくり柏	ファイナルプラン作成支援	高齢者の漠然とした不安を解消し、自分らしい老後を過ごすことを支援するために、人生の終末をきちんと準備する「ファイナルプランセミナー」を開催する。	高齢者支援課
25	NPO法人 愛と憩いと友情の館	若年無業者（ニート・フリーター）に対する就業支援教育	ニート及びフリーターに対する就業支援と親に対する支援講座を開催。これにより、講座参加者の就労意欲を高め、若年無業者の高齢化によるホームレス化を防ぎ、社会補償費及び税金の確保及び将来的な生活保護受給者の抑制を図る。	商工課 指導課
26	特定非営利活動法人 いしずえ	地域高齢者のためのナイトサロン事業	沼南「いこい荘」の空き時間（17時～21時）を利用し、地域高齢者を対象としたナイトサロンを開催。「入浴」・「食事」・「送迎」のサービスと“つどいの場”を設けることで、（主として虚弱老人が）精神的に不安になりがちな夕方から夜間にかけての安らぎの場を提供する。また、利用日以外は、「おやすみなさいコール」による安否確認を行うほか、希望者に対しては一次保護を実施。	高齢者支援課

※No.20 は選考を通過したが、提案者による取り下げのため事業実施に至らず

平成18年度 協働事業提案の状況

※「網掛け」部分：選考会を通過した提案（2件）

No.	提案団体名	事業名	事業内容	事業予算 (円)	市の事業関係課
1	(特活)教育支援三アイの会	柏市における、教育支援活動の具体的な展開方法の研究と実践 ～学校での教育活動に参加できない児童生徒への支援組織と活動の展開～	1 不登校児童生徒の実態把握 2 教育委員会との連携による「対策協議会の設置 3 不登校児童生徒の居場所となる『夢未来塾』を開設し、学習及び生活支援活動を実施 4 教育を考えるための市民参加型フォーラムなどの開催	1,602,000 ※うち市の負担額 1,527,000	指導課 教育研究所
2	(特活)せっけんの街	子どもの未来のための食育と環境教育	循環型社会の確立を目指し、廃食油からのリサイクルせっけんづくりを小学校等における環境学習授業として協働で実施する。	597,000 ※うち市の負担額 447,000	クリーン推進課 環境保全課 消費生活センター 指導課
3	(特活)おいじたくあんしんねっと	「おいじたくあんしん相談室」の開設	1 老後のライフプラン等に関する相談窓口の開設 2 老後のライフプラン等に関するセミナー、出前講座の開催	700,000 ※うち市の負担額 520,000	広報広聴課 高齢者支援課 (社会福祉協議会)
4	(特活)NPO支援センターちば	移動支援サービス調査並びに移動制約者と福祉交通への理解を深めるリーフレットの作成及び学習会の開催	1 移動支援団体のサービス内容の調査を実施するとともに、リスト化し市民に情報提供を行う 2 移動制約者への理解と協力を求めるリーフレットを作成し、学習会を開催	1,503,490 ※うち市の負担額 1,224,490	企画調整課 保健福祉総務課 高齢者支援課 障害福祉課 (社会福祉協議会) 学校教育課 指導課

平成19年度 協働事業提案の状況

※「網掛け」部分：選考会を通過した提案（1件）

No.	提案団体名	事業名	事業内容	事業予算 (うち市の負担額)	市の事業関係課
1	年金・労働 相談研究会	年金相談の 実施	年金窓口の恒常的な混雑の解消と、市民満足度向上のため、既存の相談事業との振り分けをして相談を行う。	402,000円 (388,800円)	保険年金課
2	地域支援委 員会	地域子育て 支援のため の訪問相談 の実施	1 市内企業を対象に子育てに関する制度や労務問題についての訪問相談 2 保育施設を訪問し、子育て世代の仕事と家庭生活の調和についてヒアリング調査	780,000円 (605,000円)	児童育成課 保育課 商工課 男女共同参画室
3	(特活) 柏・ 地域福祉ネ ット“風の 木”	地域高齢 者・介護家 族支援施策	1 介護家族講座、ふれあいヘルパー養成講座の実施 2 講座修了者を中心にした地域でのショップ展開やヘルパー派遣	2,910,000円 (600,000円)	高齢者支援課 障害福祉課 商工課
4	美しい地域 づくりの 会・花ごこ ろ	戸張地区で の環境美化 活動	1 コミュニティガーデン 2 ストリートガーデン 3 小規模公園の維持管理 4 戸張地区公園の維持管理 5 花苗の大量安価供給システムの構築	3,430,200円 (2,572,650円)	南部クリーンセンター 都市計画課 公園管理室 道路維持課 下水道維持課 (みどりの基金)
5	CAPなの はな	安全教育支 援事業	子ども・親・地域に住む大人・教職員を対象にCAPワークショップを実施し、子どもの心と体への暴力防止を図る。	3,160,000円 (2,530,000円)	生涯学習課 ◎学校安全対策室 指導課
6	(特活) 牧場 跡地の緑と 環境を考え る会	中原ふれあ い拠点ー防 災公園共用 地利用プロ ジェクト	中原ふれあい防災公園隣接の共用地利用について、住民アンケート調査や近隣の公共施設の実態調査等を行ってとりまとめ、地域拠点施設の提案をする。	747,000円 (747,000円)	企画調整課 広報広聴課 公園緑政課 保健福祉総務課

◎…事業の主担当課

平成20年度 協働事業提案の状況

※選考会を通過した提案は0件

No.	提案団体名	事業名	事業内容	事業予算 (円) 市負担分	事業関係課
1	若美会	小中学生への 日本伝統芸能 の伝承	踊を通して日本の伝統芸能 を体験し、礼儀作法や人 に対しての思いやり及び美 しい姿勢等を教え伝える。	520,000 500,000	企画調整課 市民活動推 進課
2	特定非営利活 動法人 NPO共生	柏市介護家族 応援センター の開設	介護者を抱える家族等を対 象に、行政機関や民間事業 者と連携して適当なサービ スのコーディネートやサ ポートを行う。	1,531,000 696,000	介護保険管 理室 地域包括支 援センター
3	特定非営利活 動法人 百尺竿頭	医療費削減と 健康維持管理 のための太極 拳ボランティア 養成講座	自発的な健康管理を誘発す るため、健康体操として太 極拳を指導する地域リー ダーを養成し、効果測定等 を行う。	800,000 500,000	保険年金課 地域健康福 祉課
4	特定非営利活 動法人 アロハート	カウンセラー 養成講座	児童虐待や介護苦による殺 人自殺、心身疾患などの悩 みを抱え込む前に、身近な 地域で話を聴き心を支える カウンセラーを養成する。	275,000 225,000	保健福祉総 務課 高齢者支援 課
5	特定非営利活 動法人 アロハート	(仮称) お休 み処	商店街の空き店舗等を利用 して、軽飲食の提供や買物 や荷物運搬サービス、ミニ ギャラリーやおしゃべりサ ロンを運営し、地域のコ ミュニケーションや商店街 の活性化を図る。	2,170,000 1,200,000	商工課 保健福祉総 務課 高齢者支援 課 障害福祉課 (社会福祉 協議会)
6	スポーツ吹矢 柏吹会	健康スポーツ 「スポーツ吹 矢」体験講座	市民参加と健康づくりの促 進のため、老若男女問わず 取り組める、腹式呼吸を活 かしたスポーツ吹矢の体験 講座を行う。	356,000 306,000	市民活動推 進課 広報広聴課 生涯学習課 スポーツ課

平成21年度 協働事業提案の状況

※選考会を通過した提案は0件

No.	提案 団体名	提案事業名	事業内容	事業予算 (うち市の負 担額)	事業関係課
1	(特活) 権利擁護 あさひ	がん患者な どの中間緩 和ケアハウ ス	①がん患者（独居及び県内外 からがん治療に来る人も含 む） ②高齢者や障害者の独居で重 篤な疾患を持つ人 ③退院後，次の施設や住居ま での短期宿泊所の必要な人 に対して宿泊所及びケアを提 供するもの	36,624,000円 (11,320,000 円)	◎保健所総務企画 課 保健福祉総務課 高齢者支援課 障害福祉課
2	(特活) 情緒教育 研究所 柏支部	不登校・引 きこもりへ の解決と予 防対策講 座・個別相 談	小・中学校や近隣センター等 において，保護者及び教員を 対象としたEQ概念による 「不登校・引きこもりの解 決」のための講演会や個別相 談を定期的を開催する	3,850,000円 (2,986,000 円)	◎教育研究所 児童育成課 保健所保健予防課

◎…事業の主担当課

<平成21年度までの実績>

年度	提案件数	事業実施件数
平成17年度	26	4
平成18年度	4	2
平成19年度	6	1
平成20年度	6	0
平成21年度	2	0

平成22年度 協働事業提案の状況

※「網掛け」部分：選考会を通過した提案（2件）

No.	提案団体名	事業名	事業内容	事業予算 (うち市の負担額)	市の事業関係課
1	(特活)スマイルクラブ	子どもスポーツ苦手解決支援事業 スマイル運動教室(鉄棒上達教室)	①鉄棒上達教室スタッフ養成研修会の実施(鉄棒上達教室に参加するスタッフ10名の事前の実技研修を行う) ②鉄棒上達教室の実施(市内の小学校5校で1回60分の教室を週2回で合計8回実施する)	1,369,000円 (1,369,000円)	◎スポーツ課 指導課
2	グループSEC(地域で‘性共育’をつくる会)	学校における「デートDV」防止教育プログラム実施事業	中高生を対象に、参加型のロールプレイやグループ討議を展開しながらワークショップ形式の講座を実施する。	300,000円 (300,000円)	◎学校保健課 指導課 男女共同参画室
3	ワーカーズ・コレクティブういず	エン結び(地縁・志援・エンパワーで繋げる人の援)	①松葉地区の高齢世帯・単身高齢者約2000人への声かけ訪問を行う。 ②多種多様なニーズに合わせた講座や介護予防教室を開催する。	1,650,000円 (1,000,000円)	◎福祉活動推進課
4	(特活)福祉サービスかいわ市民の会	移動困難者(身体障がい者、介護認定者)の福祉運送	自宅に籠もりがちな移動困難者の移動を、セダン型マイカーでサポートする。24時間休日なしの運用で、困りごと相談にも応じる。	2,500,000円 (400,000円)	◎保健福祉総務課 高齢者支援課 障害福祉課 交通政策課

◎…事業の主担当課